

将来への提言

2000 年度インカレ実行委員長 松久 寛

1.はじめに

第 XX 回日本学生オリエンテーリング選手権大会から XXXX 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会へと名前を変えた初年度、インカレのみならず日本学連全体に将来への展望が見えない状況に陥ったまま、現時点（4 月 20 日）でも解決策が出ていないのは、元日本学連の幹事長として大変悲しいと同時に、少なからず責任を感じています。

「活動報告書」という冊子が、2 年に 1 回（関東地区でのインカレの際に）発行されてきました。その巻頭を必ず毎回同じ文章が飾っています。山川副会長（4 月 1 日より）が書かれている日本学連臆億の敬意を記した名文というにふさわしい文章です。読売新聞をいうきわめて力のある大手マスコミの多大なご協力を頂いた中で第一回が開催されたインカレが、学生たちの思いによって、発展を始める原点を記した「日本学連の原点」を描いています。私はオリエンテーリングというスポーツが、やたらと「ピュア」で最近よく取り上げられる「商業スポーツ」と日本ではまったく無縁の存在にあるのが、よい意味でも悪い意味でもこの「インカレ」の変遷から出てきている気がしています。私が社会人になった直後の 1990 年頃、とあるリースや信販を手がけている、今バブルの後遺症で苦しんでいて、某銀行の「お荷物」となってしまった企業が、「名前が似ている」との理由で某新聞社を巻き込んでスポンサーにつくという話が盛り上がった時期が有りました。このときには、結局話が詰まっていく過程でバブルが崩壊し、すべて白紙となってしまいました。その後、毎日新聞社さんのご理解を得ることが出来、現在の運営体制が確立できたのは、正直言って、本当についていたと私は思っています。

「XX 新聞社杯」をもらう必要はないと思いますが、インカレの成績を全国紙各誌がきちんと載せてくれるような、「スポーツとして認知される立場」を確立できるよう、頑張っていくことが必要です。ノルディックスキー複合のように、「世界に通用する強い選手」を輩出することも必要でしょうし、「体力、知力、精神力」が揃って初めて成績が出る大変面白いスポーツである事をもっとアピールする事も必要でしょう。工夫と知恵が必要ですが、何よりもまずは情熱が必要です。学生諸君がインカレ & 日本学連を更にオリエンテーリングを良いものにしていく為に、頑張ってくださいよう、この場を借りてお願い申し上げます。

2. 役員数の減少に関して

[1]少数の役員での運営について

今回のインカレは、結局焼く 75 名（関東 & 関西からの強力助っ人含む）の役員の皆さんに運営をしていただきました。一般併設クラスでの SI カードの使用や、輸送関係を日本旅行の皆さんに殆どお任せするなど、人数削減を図ったつもりでしたが、結局当初目指していたよりは人数が増える結果となってしまっています。クラシックとリレーの会場が同じで

あるとか、役員宿舎を会場内に確保する等、少人数でも耐えうる環境の整備をしましたが、当日はなんだかんだとヒトが足りない場面が出てきました。

どこでもそうだと思いますが、結局「自分で判断して、率先して動く人」が何人居るかが大事で、頭数は何人居ても一緒ではないかという気がします。参加する学生が激減し、今後更に役員不足が進むのは間違いない状況です。従来独身の大学卒業後 5 年目ぐらいまでの人を主戦力として運営してきたインカレの役員も、とてもその世代の人達だけでは運営できない状況に追い込まれつつあると実感しています。子供が居たり、仕事が忙しいために土日ままならず、インカレも当日しか手伝えないという人達を、「実態のある戦力」として使えるような運営システムを立案していくことも必要になってくると思います。また一方で、毎年同じ人が同じパートの役員をやる事によって、負荷の低減を図ることも一つの解決策として有ると思います。

今回のインカレでは、結局イベントパートの殆どを、関東地区からの助っ人でまかなうことになりました。大会前 2~3 週間で、殆ど何も出来ていない状態から、なんとか体裁を整えることが出来たのは、彼らの日光他の経験を踏まえた効率的な運営準備に有ったと思います。マラソン大会の運営と異なり、毎年全く同じことをすればいいということはないのですが、やはりオリエンテーリングでも過去の運営経験はきわめて重要だと思います。日光（栃木）での定期開催も行われ、今後更に前回（過去）の経験が生きる大会の運営が増加すると思われます。

現在のような、開催地域を中心とした役員募集だけでなく、過去から何度も言われており、山口インカレでは少なからず実施された、日本学連全体で各パートの役員登録制といった方式を本格的に採用する検討を始める時期が来たと感じています。役員の母数自体が減少し、かつてのように、卒業後 1 回~2 回インカレを運営したら、もういいでしょう。ではすまなくなっている現状を意識改革も含めて行っていただきたいと思います。

[2]事前準備の負荷低減について

10 年程前に経験した「岐阜インカレ」の際には、山のようなコピーと会議の開催連絡と、細かいことまですべて擦り合せていく作業に追われ、ほとんど疲れていた記憶があります。また一方で、5 年ほど前に「pei」の役員として運営を経験した「静岡インカレ」の際には、マニュアルとプログラム以外殆ど資料も経験もないまま運営に臨み、「何も知らない役員とはこうなのか」と痛感もしました。

今回も電子メールという媒体を通じて情報の連絡や討議を行ってきましたが、便利さと同時に危うさを持っていると痛感しました。

【メリット】「情報の共有化」、「意思決定の迅速化」、「打ち合わせ回数の低減」、「資料のペーパレス化」等などの効果が多分に出ました。私自身は、会社で 30 過ぎの中核社員（一応）家庭では既婚 2 児の父親という立場でありながら、実行委員長という役職を、それなりにこなせたのは、このメリットのおかげと言えます。一方で、デメリットは下記点など

があります。

【デメリット】今回は、チーフ用のメーリングリスト等を作成しなかった為、特に「情報過多」、「重要な連絡としようもない情報の層別不可」、「連絡忘れの発生」などさまざまな問題が出ました。特に1月中旬～3月の大会直前までは、1日30通程度のメールが飛び交い、「実は読んでいません」という一般役員が少なからず出現しました。確かに私が持っている情報と、ほぼ同じ情報を他の役員の方までが受け取るというのが、よかったかどうか分かりませんし、そのことがよかったという意見もないわけではないので、今後「チーフメール」とか「関係者限定のメーリングリスト」の複数使用などを検討して頂いた方が良いかもしれません。

3.地図について

今回の地図は、山川さんのお力で、大会2週間前に納入をしていただくことが出来ました。地図のチェックや番号書き等相当の作業がありますが、徹夜や一部役員への蹴寄せ等が発生せずに済みました。すべてをRMOに発注して「お任せ」というのは今後難しくなると思いますが、「早期納入」というのは、運営不可低減のために、来年度以降も「MUST要件」として日程を組んでいただきたいと思います。また、モデルイベント地図を、地元も三河OLCが昨年5月に後任大会を開催した地図をベースに行いました。結局それなりに再調査をして頂きましたが、それでも相当不可は少なかったと思っています。今後も山川さんにとりまとめをお願いしながら、うまくプロ Mapper等を活用する等、新しい方法の検討をどんどん検討して頂きたいと思っています。

4. 一般併設クラスでのSIカード採用について

SIカードを利用して感じたのは、「事前準備の大幅増」と「当日および事後業務の大幅な低減」という事でした。ゴール人員や計セン人員の削減を思い切って出来たのも、SIカード利用の効果です。

今後の反省点については、別途計センチーフから詳細の引継ぎが行われますので、それを是非生かしていただきたいと思います。

5. さいごに

今回の開催地は、2005年に開催するアジア初の世界選手権開催地です。地元の皆様の熱意を準備および大会開催の期間中、ひしひしと感じました。クラシックの日に「トレイルO」を開催して頂き、一部の方には体験していただけた事と思います。また、大会コントローラ補佐の落合君が色々動いて頂いたお陰で、地元ローカルとはいえ、テレビ取材をして頂いたり、地方紙に写真入りで大きく取り上げて頂ける等、ご後援を頂いている毎日新聞殿以外のマスコミにも取り上げて頂きました。オリエンテーリングというスポーツを良い意味でメジャーにするのに、「アジア初の世界選手権」というキーワードは大変有効であると

実感しております。学生の皆さんにも、是非出来る事からでいいので、2005 年に向けて協力をお願いしたいと思います。

以上。今後もインカレそしてオリエンテーリングが、発展し続けるよう、みなで頑張りましょう。